

教育目標：よく考え 進んで学ぶ子 自分も友だちも大切にする子
正しく判断し 行動できる子 体を鍛え 最後までやりぬく子



学校だより

高松

令和6年9月2日 発行

立川市立第五小学校

校長 関口 保司

〒190-0011

立川市高松町1丁目1番25号

TEL 042-523-5238~9

042-523-5230 (こだま学級)

FAX 042-529-0854

HP <http://www.tachikawa.ed.jp/es05/>

2学期スタート

「つなぐ」「信じる」「あきらめない」

校長 関口 保司

元気な子どもたちの声が、学校に戻ってきました。今日から2学期のスタートです。2学期は、国語や算数等の各教科の授業に加えて、運動会や音楽会などの大きな学校行事も実施します。一人一人の子どもたちが、自身の力を大きく伸ばしていけるように、学校と保護者、地域が協力し合い教育活動を進めていきたいと考えています。どうかよろしく願います。

さて私はこの夏、たくさんのスポーツイベントをテレビ等で観戦しました。その中で最も感動したのは、オリンピック男子体操選手の活躍です。団体・個人・種目別と、多くのメダルを獲得しましたが、特に団体金メダルの獲得には大きな感動を覚えました。前回の東京オリンピックでは、体操団体は銀メダル。その後の3年間、選手はもちろん、チームスタッフや家族、所属チームや医療関係者など、たくさんの方々が準備を重ねてきました。体操にけがはつきものです。岡選手は2年前の全日本選手権大会で右膝を大けが。橋本選手も右手中指を負傷していました。団体決勝を前にして、チームスタッフは選手のコンディションも踏まえ、金メダルを取るための周到な準備をしました。そしてミーティングでは、キャプテンの萱選手が前回銀メダルだった悔しい思いを涙ながらに話し、それを聞いた皆の心が「金メダルを絶対に取る」という強い思いになったそうです。体操の演技は一人で行いますが、その一人一人を支え合うチームの心が、より一層強くなった瞬間だったと思います。決勝の本番も、決して順調に演技が続いたわけではありません。あん馬で橋本選手が落下した際には、「大丈夫。」「ここからだよ。」と声をかけ合っていました。特に萱選手の「絶対にあきらめるな!」という叫びにも似た声は忘れられません。そして跳馬や平行棒と一人一人が演技をつないで最終種目の鉄棒をおかえました。杉野選手が難度の高い技を決め、続く岡選手も演技をつなぎました。そして日本の最終演技者の橋本選手。演技の構成をコーチと相談。大技から着地をぴたりと決め、念願の金メダルを取ることができました。私は選手のインタビューを聞きながら、この金メダルを通して「つなぐ」、「信じる」、そして「あきらめない」ということを改めて学ぶことができたと考えました。そしてライバルの選手同士の「認め合い」「尊敬する」心も学びました。

パリではパラリンピックが始まっています。パラリンピックはオリンピック以上に学ぶことが多くあると私は考えています。五小の子どもたちも、オリンピックやパラリンピックのアスリートの姿から、多くのことを学び、日々の生活に生かしてほしいと思います。